



月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 { (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

96'5.20 No. 4398

不当労働行為の根絶 労働安全の確立めざし ストライキ体制の確立 労働組合の奮闘

5月 労働千葉 総集会

動労千葉は、五月一七日、第六回支部代表者会議を開催し、正念場を迎えた国鉄闘争の現局面について認識を一致し、組織破壊攻撃粉碎、労働安全確立をめざすストライキ体制の確立を中心とした当面する取り組みについて決定しました。

(国鉄闘争をめぐる情勢については、日刊五月一六日付、三九三九六を参照のこと。)

一、ストライキ体制の確立

JR総連・革マルと当局結託体制との新たな組織攻防戦に動労千葉は総力で決起する。

(1) 木更津支区長による組合脱退工作問題(不当労働行為の根絶)。

幕張電車区における有機溶剤作業の強制問題(労働安全確立)。を焦点としてストライキ体制を確立する。

木更津支区の不当労働行為問題の交渉経緯、新たな不当労働行為が発覚した場合、組合との合意ぬきに有機溶剤作業を再開しようとした場合、直ちにストライキに突入できる体制を確立する。(労働省へは、五月一五

日に争議行為の事前通知一五月二七日以降、いつでもストライキに突入できる体制に入る。)

(2) 新たな闘争展開、情勢認識や闘いの方針について、執行委員会、職場集会、個別オルグ等をとおして全組合員の意志統一をかちとろう。

六月五日、一八時より千葉市民会館において、「正念場の国鉄闘争勝利に向けた動労千葉総決起集会」を開催します。勤務以外の組合員は全力で結集しよう!

二、組織破壊攻撃粉碎に向けた取り組み。

木更津小関支区長によるあらゆるさまざまな動労千葉脱退工作に示されているように、一人一人の切実な希望や要求を逆手にとり動労千葉や国労脱退の手段に利用するというやり方。自己の保身や出世のために、人の気持ちや誇りをふみにじり、ズタズタにしてもかまわないというやり方。その一方で、動労千葉の組合員として団結を守る者に対しでは、配転・塩漬け・たらい回し、昇進も昇格も一切はねつけているのです。

人が人を差別する、しかも、革マルと手を結んでやっているのが今のJRだ。こんな卑劣なことは、断じて許せない! 組合脱退工作など不当労働行為が行なわれた場合は、直ちにストライキで闘おう!

三、幕張電車区における有機溶剤問題について。

三カ月近くの間、労働者を生命にかかわる危険な作業に従事させ、かつ、ウヤムヤにさせようとしていることに対しては、これを絶対に許さない立場で臨む。このことは、幕張だけの問題ではなく、JR東労組との癒着によって歪んだ、会社の経営姿勢そのものの問題だ。

有機溶剤業務の再開について、動労千葉としては、専門の業者によって行なうことを要求しています。組合との合意ぬきに再開を強行しようとした場合は、不当労働行為問題同様、ストライキに突入します。

以上、二つの課題におけるストライキ体制の確立を始め、「列車妨害事件の多発について」「作業別実態調査」「JR貨物をめぐる闘い」「九六夏季物販を中心とする動労千葉支援体制の強化」「解雇撤回闘争」等の取り組みについて確認し、各支部の仲間は、現場での闘いにもどりました。

五月一二日、東京において第七回外登法・入管法と民族差別を撃つ全国研究交流集会が八五〇名の参加で開催された。

今年も、焦点となつていいる沖縄から一四日に「象のオリ」の中に入る事が決まった知花昌一氏と知花盛康氏が現状を報告し、新崎盛暉沖繩大教授が安保の歴史を紐解いて安保の維持・強化を狙う今回の再定義の本質を鮮明にした。

5.12 民族差別を撃つ!! 交流集会報告

基調報告では、外登法で指紋押捺はなくなったが、逆に新たな治安管理が強化されようとしており、国益優先の治安管理という本質がなんら変わっていないこと、窓口となる自治体労働者自身がどう考えたらいいか困惑していること、運動を強め広めることの必要性が訴えられた。

また在日韓国人であることをもつての就職内定取り消しを撤回させた人は、職場の「会社第一」の雰囲気までも日本人も人間らしく働けない状況を作っており、民族差別はこうした状況から作り出されることを指摘し、職場での不断の働きかけの闘いが報告された。

3分間アピールでは、動労千葉より山田雄一執行委員が国鉄闘争の決戦性を訴え満場の注目を集めた。

五月一二日、東京において第七回外登法・入管法と民族差別を撃つ全国研究交流集会が八五〇名の参加で開催された。

今年も、焦点となつていいる沖縄から一四日に「象のオリ」の中に入る事が決まった知花昌一氏と知花盛康氏が現状を報告し、新崎盛暉沖繩大教授が安保の歴史を紐解いて安保の維持・強化を狙う今回の再定義の本質を鮮明にした。

基調報告では、外登法で指紋押捺はなくなったが、逆に新たな治安管理が強化されようとしており、国益優先の治安管理という本質がなんら変わっていないこと、窓口となる自治体労働者自身がどう考えたらいいか困惑していること、運動を強め広めることの必要性が訴えられた。

また在日韓国人であることをもつての就職内定取り消しを撤回させた人は、職場の「会社第一」の雰囲気までも日本人も人間らしく働けない状況を作っており、民族差別はこうした状況から作り出されることを指摘し、職場での不断の働きかけの闘いが報告された。

3分間アピールでは、動労千葉より山田雄一執行委員が国鉄闘争の決戦性を訴え満場の注目を集めた。